

1. コロナ禍における両事業の課題

1. 児童対応

i マスク着用に伴う弊害

- 表情が読み取れなくなっている。
(P4・14)
- 会話が減少し、会話内で相手の気持ちを読み取ることが難しくなっている。
(P4)
- 活動に制限が生じ、体力の低下がみられる。
(P4)

ii 交流機会の減少

- 自由来館や行事の休止等により、地域との交流の機会が減少している。
(P10・11)
- コロナ対策により学年ごとの活動を余儀なくされる中で、異年齢交流の機会が減少している。
(P9・10)

iii ストレスの増加

- 遊びや活動の制限により、ストレスが増大。児童同士のトラブルにつながっている。
(P4)

i 家庭内トラブル

- 就労状況や家庭内の状況の変化により、家庭内トラブルが増加。児童への悪影響が心配される。
(P5)
- 感染対策の長期化に伴うストレスにより、児童・保護者双方にメンタルヘルスの悪化が心配される。
(P4・5)

2. 家庭支援

i 子育て家庭への支援

- 乳幼児親子の自由来館休止等の影響により、居場所がなくなり孤独を感じているという子育て家庭の声を多く聞く。
(P10)

ii 情報の減少

- 玄関先での児童引き渡しにより、活動の様子を保護者へ伝える機会が減少している。
(P5)
- 小学校や児童館での懇談会の開催見合わせ等により、保護者同士の情報交換の場がなくなっていることへの不安を抱える保護者がいる。
(P5)

3. 業務負担

i 消毒作業

- 通常業務に加え、消毒作業を行うにあたり、十分な時間の確保と人員配置を必要とする。
(P13)

ii 各種事業の再開

- コロナ禍により縮小・中止としていた事業の制限が解消していく中で、感染防止対策との両立が求められる。
(P17)

4. 施設・機能

i 場所の確保

- 三密回避のため、児童同士の距離を確保する必要があるが活動面積が限られており、対応に苦慮した。
(P17)

ii 自由来館の制限

- 児童クラブの受入れを優先せざるを得ず、乳幼児親子や小中学生等の居場所を制限することとなった。
(P10)